

グループディスカッション ワークシート（要点まとめ） グループ名:B

【テーマ】「大人から子どもまで障害のある方を理解し支え合う武蔵野市を目指して
～実現のために自立支援協議会ができること～」

ワーク1：「各部会の活動報告を受けて」

- ・様々な部会の報告を受けたのは初めて。それぞれ具体的な成果を得られてよかったと思う。来年度が楽しみ。
- ・対面開催でよかった。感じられる雰囲気や理解の仕方が全然異なる。
- ・他の部会が何をしているかを具体的に知れてよかった。
- ・実際に講師を招いたり、事例検討をしたり、他の区との交流をしたり等、活発に活動しているなという印象。
- ・来年度は「住まい部会」でも座学以外の取り組みをして成果として挙げられたら良いと思う。

ワーク2：「今後の協議会活動に向けて（課題と目標）」

ワーク1を踏まえ、今後本協議会が取り組むべき課題と目標などを意見交換する

- ・コミセンと「つながる」のがよい。英語教室やPC教室ボランティア（お年寄りにスマホやPCの使い方を教える）を行っている。それにより横とのつながりを感じられる。障害分野のみでなく、就労、就学など様々な分野でつながっていたことで充実している。興味があることに積極的に飛び込んでいくことが大切。一部のつながりで問題が起きても、他のつながりで補えるため、精神的なリスクヘッジの役割も果たしている。最初だけエネルギーや勇気がいるが、一度始まれば自然と動いていく。
- ・つながるための情報をどのように集めるのかがポイント。情報を自身で集められる人のみではないと考えている。私は市報、コミセンだより、プレイスの張り紙、などで情報を得ている。
- ・地方に比べて東京は気軽に遊べる場所が少ないと感じる。地方には昔ながらの駄菓子屋のようなお店が多い。地方の射的場（無料）で知的障害と思われる子どもが遊んでいた。無料で遊べるこういった場所からつながりができていったらよいと思う。各専門部会においても年齢層を下げた考えるのも面白そう。ex) 中高生の相談にのるプログラムなど。
- ・遊びに行ったり出かけたりするとき、出先で子どもだけだと見守ってもらえない場所が増えてきた。学校やイベント、コミセンなどでつながりを増やすことで、地域で自分を「分かってくれる人」が増えれば、いろんな場所で見守ってもらえるようになるのではないかと考える。
- ・「分かってくれる人」を増やす方法は、一度新しい環境へ飛び込んでみて判断するしかないかもしれない。合えばいいし、合わなければ抜ける。
- ・保育園の先生や学校教師、あそべえの支援員などの役割は重要。
- ・地域の人にどういことを伝えておくと受け入れやすいのかは難しい。
- ・「つながる」がキーワード。

- ・地域で障害がある人が暮らすためには、一般の人とのつながりも大事。しかし作業所でも常連の客が多い。広く様々な方に知ってもらいたいとは思いますが、なかなか難しい。
- ・本の販売が好評でそこから知名度が上がった作業所もある。その他に、売れ筋のものを置いてみるのも良いと思う。現在も行っているように、子ども食堂の開催などいろんな活動に取り組むのが良いのではないかと考える。